



「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。」(エレミヤ 31:3~4)



エターナル・ラブ・イスラエルは、日本国内でユダヤ人に福音を伝える働きです。

- 事務局：〒226-0014 横浜市緑区台村町 186 番地 TEL:090-8729-0856
- メール：eternalloveisrael@gmail.com ●ホームページ：<http://eli.holy.jp>
- 銀行口座：三菱東京 UFJ 銀行 武蔵新城市駅前支店 普通預金 0909009 エターナル・ラブ・イスラエル
- 郵便振り込み：00200-9-79214 エターナル・ラブ・イスラエル



代表：宮本 純子

☆ロシュ・ハシャナーユダヤ新年5782年を迎えて☆



ハレルヤ！主の聖名を心から賛美いたします。いつもエターナル・ラブ・イスラエルの働きのためにお祈りと尊い献金で支えてくださりありがとうございます。

今年は、9月6日の日没にロシュ・ハシャナーユダヤ新年5782年を迎えました。ユダヤ暦は、西暦に 3760 年を足した年数に等しいですが、これはラビたちが聖書に基づいて天地創造から計算したという年数を採用したものです。ユダヤ暦の新年は、西暦では 9 月頃、ティシュレ月(第 7 の月)1 日から2日間お祝いします。

私は、ハバッドジャパン主催の「ロシュ・ハシャナーユダヤ新年をお祝いする会」(東京アメリカンクラブにて開催)に出席のために、イスラエルの国旗をイメージした青い着物と白の帯を仕立てました。ラビ・メンディ・スダケヴィッチ師から着物を褒めて頂いたことがとても嬉しかったです。コロナ禍なので感染対策を万全にし、感染予防に努めながら、大勢のユダヤ人と共に新年をお祝いしました。



ロシュ・ハシャナー(ユダヤ新年)には特別な意味のある食物があります。林檎をハチミツに浸して食べるのには、新しい年が、林檎のように丸くてハチミツのように甘い年となるように、という意味があります。他にも特別な意味のある人参、長ネギ、赤カブ、ナツメヤシの実、カボチャ、ザクロ、魚料理を食します。

ロシュ・ハシャナー新年は、ラツパの祭りでもあります。

「イスラエルの人々に言いなさい、『七月一日をあなたがたの安息の日とし、ラツパを吹き鳴らして記念する聖会としなければならない。』旧約聖書レビ記 23:24

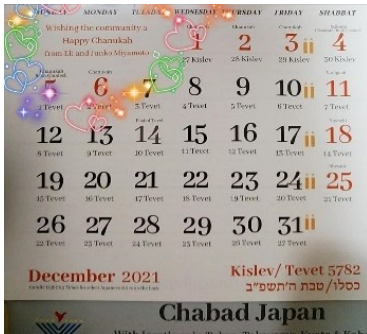
第 7 の月 1 日に、ラツパ、つまり角笛(ショーファー)を吹き鳴らします。ロシュ・ハシャナーの初日が安息日に当たる場合は、2 日目に角笛を吹きます。テキヤ、テルア、シェバリーム、などといった独特の吹き方をします。ハバッドジャパンでは、9月7日の新年礼拝で、角笛(ショーファー)を吹き鳴らしました。

週の 7 日目が安息日で聖なる日であるように、第 7 番目の月は 1 年のうちで聖なる月です。同様に、年についても 7 年目は安息年であり聖なる年と見なされます。今年5782年は、安息年です。



新しい 5782 年が、イスラエルにとって、また皆さまにとっても、林檎のように丸くてハチミツのように甘い年となりますように。神様の素晴らしい祝福が益々満ち溢れますように心からお祈り申し上げます。シャナートバー(良いお年を)！！

☆在日ユダヤ人カレンダー☆



ハバッドジャパンでは、日本に在住、滞在しているユダヤ人のための初めてのユダヤ暦カレンダーを作成、発行しました。

北海道、東京、高山、京都、神戸での安息日が始まる金曜日の日没に蠟燭に点火する時刻と土曜日の安息日の終わる時刻が記載されています。

12月の暦のページには、「Wishing the community a Happy Chanukah from ELI and Junko Miyamoto」と、メッセージを掲載して頂きました。日本のユダヤ人コミュニティとの良い交わりを感謝します。

私は、ハバッドジャパンにて9月15日～16日に行われたヨム・キプール(大贖罪の日)の礼拝も、9月20日～27日のスコット(仮庵の祭り)の礼拝も、9月28日のシムハット・トーラー(律法の歓喜祭)の礼拝にも出席させて頂きました。日本のユダヤ人コミュニティのためにお祈りください。彼らは、メシアの到来を待ち望んでいます。霊的な目が開かれて、そのメシアがイエス・キリストだと信じる事が出来ますように。

☆杉原千畝さんと野村路子さん☆



「一人の命を救うことは、全世界を救うこと。」

去る8月15日、日本橋高島屋にて開催された「杉原千畝展」に行ってきました。戦争中の大変厳しい中であっても、ユダヤ人の命を救うためにビザの発給をする決断をし、6000人のユダヤ人の命を救った杉原千畝さんの功績を私は、忘れません。

私は、「杉原千畝展」の後、「命のビザ・コンサート」(ルネこだいらホール)に行きました。「命のビザ・コンサート」は、テレジンを語りつぐ会代表の野村路子さんの企画、台本と詩、朗読で、杉原千畝さんの生涯を歌とピアノで語るコンサートです。杉原千畝さんの功績がよく理解できるととても素晴らしいコンサートでした。



去る9月12日、私は、「テレジン収容所の若い画家たち展」(川越市立美術館市民ギャラリー)と「テレジンもう蝶々はいない 歌と語りのコンサート」(ウエスタ川越)に行ってきました。テレジンを語りつぐ会の野村路子さんが、「テレジン収容所の若い画家たち展」を開始してから30年になります。30年間、テレジン収容所のことやホロコーストのこと、命と平和の大切さ、子どもの幸せ、そのために私たちはどう生きるべきなのかを考え、語り継がれてきたのです。これからも語り継がれます。活動を続けるということは、凄いことです。

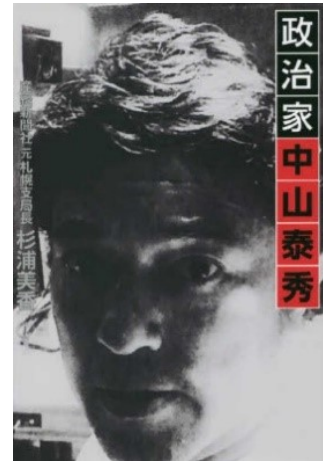
エターナル・ラブ・イスラエルは、1993年4月から活動を始めてきました。しかし、2007年から2017年の10年間は活動休止でしたので、セカンドステージから5年目です。「継続は力なり」。エターナル・ラブ・イスラエルは、神様が「目を覚まさない。起きなさい。」と、建て直して下さった主の働きです。

「永遠の愛(エターナル・ラブ)をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに、誠実を尽くし続けた。おとめイスラエルよ。わたしは再びあなたを建て直し、あなたは建て直される。」(エレミヤ 31:3~4)

私は、とても弱くて小さい者なので、イエス様の御手をしっかり握り、主と共に

(写真:野村路子さんと) エターナル・ラブ・イスラエルのユダヤ人伝道の使命を全うして参ります。

☆ユダヤ人の埋葬☆



9月初旬、日本在住のユダヤ人男性が55歳の若さで突如亡くなり、深い悲しみに包まれました。彼は、日本に30年以上住んでいました。彼のイスラエルにいるご遺族は、彼の遺体が律法に沿って葬ることが出来るか非常に心配していました。火葬は日本で一般的な慣習です。しかし、ユダヤ教の律法では、火葬は禁止されています。その理由として地球の土より生まれた人間が土に帰る定めにあるとされているからです。人間の肉体は、魂との神聖な「パートナー」と見做されています。私達の肉体は魂が保管される容器として神から与えられている為、120年後(ユダヤ教において人間の寿命とされている年数)に人生を全うした後、創造主に返還されるとしています。それ故、律法では、人間は肉体を燃やす権利を持たないと定めています。ハバッドハウスのラビ・エデリー師は、遺体を速やかにイスラエルに輸送できるように手配しました。律法では、家族が亡くなった後、死後すぐに葬ることを定めています。コロナ禍のために多くの地方事務所が閉鎖されていました。ラビ・エデリー師が課題を克服するためあらゆる方法を考えました。

中山泰秀前防衛副大臣のご好意により、外務省とのご協力を頂き、無事に遺体をイスラエルに輸送することができました。中山泰秀氏は、外務副大臣(第二次安倍内閣、第三次安倍内閣)を歴任。中山泰秀氏だからこそユダヤ人男性の遺体をイスラエルに輸送できるように手配できたのだと思います。亡くなられたユダヤ人男性は、イスラエルのティベリアにある家族の近くに埋葬されました。メシアがすぐに訪れ、彼は天国で愛する家族らと再会することが出来るでしょう。

中山泰秀氏は、日本イスラエル友好議員連盟幹事長を務められています。「政治家 中山泰秀」杉浦美香著、青林堂、定価1650円、9月初版発行されたこの本には、「心はイスラエルと共に」の思いがあふれています。

10月31日の衆議院選挙2021は、残念な結果となってしまいましたが、今後の活躍をお祈り致します。

☆アートミニストリーより 第63回太平洋神奈川展☆



去る9月1日から5日まで、横浜市民ギャラリーにて開催された「第63回太平洋神奈川展」に、「ガリラヤ湖の朝」水彩画F30号と「死海の神秘」水彩画F30号の作品を出展しました。今までエルサレムを描くことが多く、ガリラヤ湖と死海は初めて描きました。

聖地イスラエルの魅力あふれる場所を、神様を賛美しながらこれからも描いて参ります。

☆第32回神奈川美術協会会員展☆



去る10月12日から17日まで、横浜市民ギャラリーにて開催された「第32回神奈川美術協会会員展」には、聖地画ポストカードの原画を3点出展しました。多くの方々に見て頂けて嬉しかったです。

今まで描いてきた絵を展示する機会が多く持てたら嬉しく思います。

イスラエルの風景や聖書の世界を描いた絵は、福音を伝える力を持っています。多くの方々に見て頂けるように、これからも「聖地画」を描いて参りますので、これからもアートミニストリーの働きのためにお祈りとお理解をよろしくお願い致します。

☆ 祈りのリクエスト ☆

「エルサレムの平和のために祈れ。『おまえを愛する人々が栄えるように。おまえの城壁のうちには、平和があるように。おまえの宮殿のうちには、繁栄があるように。』」(詩篇 122:6~7)



☆ 神様の深遠なるご計画の中で特別に選ばれ、愛されているユダヤ民族、平和の町であるエルサレム、イスラエルの平和が守られ、神様の計画と御心が成りますように。

☆ イスラエル国会は、右派政党「ヤミナ」のベネット党首が率いる連立政権。新政権の連立合意では、23年に中道「イエシユアティド」のラピド党首がベネット氏に代わって首相に就く輪番制です。イスラエルの国政、国内情勢のためにお祈りください。

☆ 世界情勢が激しく動く中、世界中の政治的指導者たちが、神様からの正しい知恵と判断力が与えられ、神様の御心に従って政治を進める事が出来ますように。

☆ イスラエルと日本との国交があらゆる分野で更に深まりますように。

☆ 新型コロナウイルスの感染拡大が世界中から一刻も早く終息しますように。一人でも多くの方の命と健康が守られますように。コロナ禍の中で、イエス様を信じて救われる魂が世界中で多く起こされますように。神様のご介入と助けを切に祈り求めます。

☆ メシアニック・ジューの一人一人の信仰を強めてくださり、イスラエル国内で大胆に伝道できますように。

☆ 多くのユダヤ人がこの日本で、イエス・キリストに出会い救われますように。その為に私達が情熱を持って、神様の愛をもって、伝道する事が出来ますように。

☆ 日本のクリスチャンの霊的な目が開かれてユダヤ人伝道について正しく理解し、イスラエルの回復のために神様の御心に従って祈っていくことが出来ますように。

☆ 主のご再臨のために。イスラエルの救いのために。日本のリバイバルのために。

☆ 2021年 冬のユダヤの祭り ☆



☆ 11月28日の日没~12月6日 ハヌカ(宮潔めの祭り、奉獻の祭り)

ハヌカは、ヘブライ語で「奉納」「献堂」という意味です。ハヌカの祭りは、ユダヤ暦キスレブ月の25日から8日間祝われます。ハヌカの祭りの起源と由来は、セレウコス朝(312-164 B.C.)時代に遡ります。シリアを支配するギリシャ軍がエルサレムの神殿を占拠しました。しかし、164 B.C.ユダ・マカビーたち指導者のもと、ユダヤ民族は、勝利し聖地エルサレムを奪還、神殿を再び奉獻することが出来ました。ハヌカは、たとえ少人数であっても信仰を持って戦い、エルサレムを奪還して神殿を再び奉獻した事の奇跡を記念した祭日です。奪還した神殿には、神聖な油壺が一つ大祭司の封印のまま見つかりました。油は、わずか1日分にも満たなかったのですが、なんと8日間も燃え続けたのです。ハヌカは別名、「光の祭り」とも呼ばれます。ハヌカには、7枝のメノラーではなく、8枝ともう1つの蠟燭を灯す枝の9本の燭台(ハヌキヤ)に、1日ごとに1本ずつ増やして点火していき、8日目に全部が点るようになります。点火用のろうそくは、「シャマシュ」という呼び名がついています。灯りは「希望」と「献身」を象徴しています。一晩ごとに蠟燭の灯りとともしながら、祖先から受け継がれてきたように、ユダヤ民族の未来の世代のために、伝統を持続させることに自身を捧げる意味がこめられています。

2021年12月 冬号発行(季刊誌)